

## 目次

はじめに	
カリキュラム一覧	
本書の使い方	
第1章 身近な自然を活用した環境教育の提案	9
身近な自然を使って中学校で環境学習	10
「生徒をその気にさせる」授業作りのヒント	12
第2章 都市の緑地を使った環境学習プラン	15
1. 『ヒートアイランドと緑地の関係』	16
2. 『つながる土』	22
3. 『学校に生きものを呼ぼう!』	28
4. 『人が運んだ生きものたち』	34
『新宿御苑』～フィールド紹介～	40
いろいろな場所で展開するには	44
第3章 里山の自然を使った環境学習プラン	45
1. 『考えよう“外来種”』	46
2. 『鳥を通して地域を見る』	52
3. 『作ろう!学校ネイチャーセンター』	58
4. 『わたしの中の“自然”を探る』	64
『横浜自然観察の森』～フィールド紹介～	70
いろいろな場所で展開するには	74
第4章 より深く学ぶために	75
グループで活動できる力をつけよう	76
ファシリテーション・マインド	78
現場スタッフとの連携について	80
フィールドを利用する時の留意事項	81
お役立ち問合わせ先一覧	82

## はじめに

かつて日本の子どもたちは、自然とのふれあいを通して、生きものを慈しむ心やいのちを感じ取る感性、自然の不思議さや偉大さ、自然環境を維持していく知恵などを、学んでいました。社会全体の都市化が進み、高度な消費社会となった現代の日本において、都市の子どもはもとより、農山村の子どもですら自然とのふれあいがめっきり減ってしまいました。

このような中、全国の小学校・中学校において「総合的な学習の時間」が導入され、さらに平成15年7月に成立し10月に施行された「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律（通称：環境教育推進法）」では、学校教育等における環境教育や体験学習等の充実を図ることとされています。しかしながら、小・中学校における自然環境をテーマとした中学校での取り組みは十分とは言えない状況にあります。

そこで、中学校の先生方が自然環境に関する体験的な学習活動や環境教育に取り組む際に参考となるティーチャーズガイドを作成することとしました。すでに昨年、小学校の先生向けのティーチャーズガイドを作成し、好評を得ているところです。今年度は中学校の先生向けのティーチャーズガイドを「身近な自然をテーマとしてどのような活動ができるのか」をわかりやすく具体的に知ることができるよう、2つのフィールドでモデル的な展開例を提案しています。子どもたちが身近な自然に興味を持ち、自然を科学的に理解し、その地域の置かれている歴史的な背景を知り、持続可能な社会の実現に向けた取り組みができるよう、数時間のカリキュラムを想定したものになっており、学習深度を持たせ活用できるものとなりました。

このティーチャーズガイドが学校をはじめさまざまな場において広く活用され、自然環境に対する関心と理解を深めることに役立つことを期待しています。

おわりに、作成にあたり「新宿御苑」、「横浜自然観察の森」で実際業務に携わっているレンジャーや担当者、学校関係者、学識経験者、資料提供をしてくださった方々など多くの皆さんに御指導・御協力をいただきました。この場を借りまして、心から御礼を申し上げます。